

連載47

そして音楽の旅は続く

## 「おとな倶楽部/西郡よう子」



クルーズ船に乗るために成田空港からアトランタを経由してパナマに到着。スペイン語はまったく分からないのに入国ゲートで止められて大騒ぎをした後、パナマのホテルで一泊、翌日には乗船をしてショーのお仕事がスタートします。大きなクルーズ船なので揺れは少ないのですが、それでも揺れる場所で立って唄うのはけっこう難しかった～。映画『海の上のピアニスト』のように、ピアノがステージに固定されていたので、ピアノにしがみついて唄うことになっちゃって、今思えば少し変だったかもしれませんがね。でも、転ぶわけにもいかないし。とにかく精一杯がんばって唄ってきました。この旅にはお仕事以外でも心に残るたくさん思い出があります。360°陸地の見えない太平洋で見る南十字星や満天の星空、日本では見たことな

い品物を売っているコスタリカの市場、クルーズ船でゴールデンゲートブリッジをくぐる時は橋に手が届きそうでした。「思い出のサンフランシスコ」を唄いたいなあと思いつきながら、下船するために寄ったサンフランシスコに残って、西海岸の音楽を満喫したかったけれど、それは次回のお楽しみということで成田に向かいました。いつかお客様としてのんびりと乗船できる日がきますように！

さて、帰国後もこれまでと同じ様にコツコツとLIVE修行を続けていますがある日、ふっと日本語の歌を唄いたくなってしまいました。私は元々がシンガーソングライターで日本語の歌手ですが、あちこちと音楽の旅をしているうちにJAZZに巡り合いました。もしかしたらJAZZのように自由な雰囲気、日本語の歌を唄うと気持ちいいかもしれないと思ったのです。思い描いたのは、アコースティック・ギターだけで、色んな物を削ぎ落したスッキリとシンプルな感じ。「おとな倶楽部/西郡よう子」というアルバムをレコーディングしました。アレンジも演奏も協力してくれたギタリスト須古典明さんはジャズ・ボサノバ・ポップスも何でもこなす素晴らしい名手です。繊細なグッとくる感性もたまらなくて、LIVEではよく弾いていただきました。いちばんの悩みは選曲でした。ジャズのスタンダードソングと同じように、日本

ジャズボーカリスト

星乃けい

official website

<https://www.hoshinokei.com>

にも素晴らしい曲が星の数ほどあります。結局、古い曲からユーミンの曲までの中からと、自分のオリジナル1曲をピックアップしました。選曲については、ちょっと手探り感がありますが、須古さんをお願いして本当に良かったと大満足です。「おとな倶楽部/西郡よう子」は配信のみでの販売ですが、よろしければ聴いてみてくださいね。最近では80年代の音楽が流行っているから、私の若いころのアルバムも発売されて不思議な気分です。私が音楽の旅を続けて50年近くなりますが、また日本語の歌を唄うなんて、50年で1周して戻って来た感じです。でも今は、ジャズという楽しいお友達が一緒です。



2005年12月14日、ジャズシンガーとして待望のリーダーアルバム「NEARNESS OF YOU/星乃けい」、2006年12月20日「IN A SENTIMENTAL MOOD/星乃けい」をLP、CDでリリース。オーディオファン、ジャズファンから高く評価支持される。